

インターネットのリンクは、画面上でクリックするかコピーしてください。

最新情報は Facebook ページで。 <https://www.facebook.com/daycaresafety>

【★印=2021年3月29日の加筆・更新】

★ 2022年4月は2019年4月に戻りません。2021年にどんな保育・教育をしていたかが2022年以降を決めます！活動や行事、保護者との関係を見直し、不要なことをやめ、リモート等の将来的な活用も考えていく。2021年はコロナ禍をプラスに変える方向へ。

★ 「空間除菌（噴霧）」の、新型コロナウイルスに対する効果は世界でも日本でもまったく認められていません。そもそも空中に化学物質（塩素、アルコール、オゾン、なんでも）を噴霧することは人体、特に成長中の子どもの健康にとって危険です。また、「除菌」をうたっている商品が「実験ではこんな効果がある」と言っている、実生活環境の中の効果が認められているわけではありません（「誇大広告」と指導されている商品も続々出てきています）。逆に、二酸化塩素を発散する商品のように健康被害が認められているものもあります。

営業の方にこのようにお尋ねください。会話は録音しておきましょう、証拠ですから。「録音しますね」と言えば、それだけで会話の内容は変わるとは思います。

・「この保育室のような環境でも、新型コロナウイルス感染の予防に効果がありますか？」（実験室でウイルスを殺すとかではなく、感染の予防に効果があるのか）

・「この保育室のような環境で使用していて、子どもたちの健康に悪影響はありませんか」

・「それだけの効果なら、世界じゅうで売られていますよね！どんな評価を受けていますか？」

※「空間噴霧」の件はこちらの「5（補論）空間噴霧について」（厚生労働省）。PDF上でクリックできます。

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/syoudoku\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/syoudoku_00001.html)

※ 除菌、消毒、感染経路等については、Facebook ページの「目次」の中に情報リンクを多数置いてあります。

★ 「アルコールで消毒すればいい」？ いいえ、ノロ、ロタウイルス、さまざまな症状を起こすアデノウイルス、手足口病等の原因になるエンテロウイルス、風邪の原因になるライノウイルス等は、アルコールに強いので、次亜塩素酸ナトリウムでなければ消毒できません。アルコールで消毒できるのは、新型コロナウイルスとインフルエンザウイルス程度です。そして、新型コロナウイルスもインフルエンザウイルスも、次亜塩素酸ナトリウムで消毒できます。「アルコール！」とばかり思っているうちに、他のウイルス感染症が広がります。園の衛生管理は2019年以前と同じく「次亜塩素酸ナトリウムの薄め液で」。『保育所における感染症対策ガイドライン』（2018年、厚生労働省）

★ 「手指をアルコール消毒」？ いいえ、子どもも先生たちも手洗いを。アルコール消毒はあくまでも手洗いができない時の代替です。そして、アルコールは目に入るときわめて危険です。

● 子どものマスク着用：厚労省のQ&A（9月15日）の問17に「2歳未満は推奨しない」だけでなく、「WHOは5歳以下の子どもへのマスクの着用は必ずしも必要ないとしています」と書いています。つまり、WHOの見解を追認しているわけです。ただし、子ども自身が「（父母に怒られるから）マスクをする」と言う場合は、その子の心を守るために断固、着用させてあげるべきでしょう。

- **子どもの体調管理について、例年と変わりはあるか？**：ありません。見分けはつかないのですから。「熱があるから、新型コロナかも。迎えに来て受診を」？ いいえ。新型コロナについては、熱の基準自体、なくなりました（発熱しない人も多い）。「〇〇ちゃんの体調が、いつもより～です」という情報提供に徹する。受診を決めるのは保護者。検査を決めるのは医師。

詳しくは「保育の安全」（検索）→「コミュニケーションのトピックス」→B-4  
[https://daycaresafety.org/topics\\_disease\\_com1.html](https://daycaresafety.org/topics_disease_com1.html)

- **体調チェックは？**：暖かくなると、非接触型体温計は実際よりも高い値が出る可能性が高くなります。「家で検温して、体調と共に記入を」で十分。保護者が嘘を書く？ たとえ嘘でも、保護者が書いたことが証拠です。園で測ったら熱が高い？ 「今、熱が〇〇度です」と午前のうちに保護者に連絡を（お迎え要請ではない。上のB-4参照）。

結局、迎えに来ず、夕方に「なんだ、下がっているじゃないですか」と言われる？ 早く迎えに来たものの、次の日、「家に帰ったら、熱も下がって元気でした」と言われる？ …「（穏やかに）そうなんですね（ニッコリ）。（そして、きっぱり）園では何時に〇〇度、あったのでね（ニッコリ）」。

園は子どもの事実を伝え、保護者に判断させる。それ以外のところで疲弊しないでください。

☆ ☆ ☆

- **100%感染予防と「保育・教育活動の価値」の両立は不可能**：計8割が無症状か軽症で、主に飛沫・空気感染（※）ですから、「100%感染予防」はできません。保育・教育の価値と就労の価値をリスクよりも優先させて、明らかに濃厚接触である未就学児施設に登園すると選択しているのは保護者。そして、当初、無謀にも保育所を閉めない選択をしたのは国、自治体（※※）。不安の中で開所し続けている園に感染予防の責任を押し付けるのは理不尽です。

だから、園は「保育・教育の価値」を前面に出すべきです（例：布マスクと、口元の見える布マスクやマウス・シールドを使い分ける。保育者と子どもだけで活動と行事を通常通り行い、保護者には配信する等）。危機下、子どもが被る心身の被害を最小にするのは、おとなすべての責任ですから。

※詳しくはコロナの翻訳資料をご覧ください。

※※：未就学児の年齢層は重篤化しにくく、死亡も稀なようだと、他国の研究結果からわかったのは7月以降。「開所し続け、子どもたちが集団生活をできてよかった」と言えるのは、あくまでも結果論。もしも、インフルエンザのように乳幼児も重篤化する疾患だったら、どうなっていたのでしょうか？

- **「未就学児施設の職員だけが我慢をさせられている」？**：いいえ、未就学児施設は、心配を共有しやすい、皆で予防の取り組みをしやすい環境です。保護者の中にも感染する／させるリスクを感じている人は、たくさんいます。でも、その人の職場や同僚が気にしなかったら、対策のしようがありません。医療施設もスーパーも不安ですが、不特定多数の出入りを規制できません。介護施設は出入りの規制をできますが、入所している人たちがハイリスク群です。
- **助け合うことで、「自分を守る」「みんなを守る」に**：「家族がPCR検査を受けるから、結果が出るまで担任を代わって」「保護者の〇〇さんの検査結果が出るまで、私、事務室の仕事をするね。うちは要介護の家族がいるから」…、こうしたことも園ではできます。Facebook ページの「ひな型」の中に「配置が欠けることもあります」と保護者に伝えておく文書もあります。お互いに助け合っていると

いう感覚は、「自分を守ることが、みんなを守ることになる」実感と行動につながります。

【ひな型と解説を集めた目次】

<https://www.facebook.com/103849474593735/posts/163992431912772>

- 「感染するな！」「園に迷惑をかけるな！」：こうした言い方は反感を買うだけで、リスク行動の抑制にはつながりません（←健康心理学の理論のひとつ）。それどころか、職員に恐怖と罪悪感を植えつけ、最悪の場合、感染した職員の自殺等にもつながります。絶対に言わ（せ）ないでください。
- 園のリーダーシップの使命は職員と子どもたちを毅然と守ること：「絶対に感染させないで」と保護者から言われたら、（共感を込めつつ）「ご存知の通り、できる限りの感染対策をしています。私たちも不安です（※）。でも、100%予防はできませんし、園は濃厚接触の場です」と毅然と言いましょ。 ※「自分たちも不安なのだ」と明言。未就学児施設の職員も人間だという点を保護者は理解すべきです。
- （毅然の柱＝）謝罪しない：検査や対応の遅れや隠ぺいがあったのではない限り、謝罪は不要。感染は罪（悪）ではない。休園も感染者や園の責任ではない。「感染は悪」は、感染隠しにもつながります。職員を守ろうと思うなら、毅然として謝らない、です。
- 負えない責任は決して負わない。自治体の責任にできることはすべて自治体の責任に：負えない責任、国も自治体も医者も負おうとしない責任を園が負ってはいけません。詳しくは、前ページに掲げた「ひな型の目次」の中で特にPCR検査に関わる文書（2つ）をお読みください。

☆ ☆ ☆

- 主たる感染経路は、「閉じた空間の中の飛沫」（翻訳資料参照）であり、飛沫感染だけでなく、（はしかほどではありませんが）空気感染もします。密集／密接は感染リスクを高めますが、それ以前にまず、「密閉」です。換気のない（悪い）空間の中にウイルスを出している感染者がいれば、感染は起こり得ます。「室内でも、2メートル離れていれば／消毒していれば大丈夫」ではありません。
- 外気との換気が重要。ちなみに、エアコンの大部分は換気しません。サーキュレーターや扇風機を使い、すずらんテープを細く切って吹き流しをあちこちに付け、実際、空気が流れているかどうか確認を。二酸化炭素濃度計も活用できます（消毒・除菌、換気等について、また、二酸化炭素濃度計については Facebook ページの「目次」から項目を見つけてください）。
- 「感染対策実施済」「換気をしています」と施設／店舗が宣言していても、利用者には実効性がわかりません。園の少人数グループや家族で食事に行くだけでも、同じ空間の別のグループにウイルスを出している人がいたら感染は起こり得ます。空調の風を通じてウイルスが移動することもあります。自分を守るためには、閉じていると見えて換気のない（悪い）空間に、長時間とどまることは避けたほうがよいでしょう（例：立ち食いそば屋＜話をしながら食事をする飲食店）。園でも、窓のない更衣室や休憩室がリスクの高い場所になります。